

# 隠岐圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
隠岐-1	隠岐(しま)の木生産拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林GISが導入されるなど施業の集約化に向けた取り組みが着々と進んでいる。</li> <li>・島前地域においても木材生産体制が整備されつつある中、島後地域で共同出荷体制が構築されたことで隠岐地域全体として共同出荷が可能となった。</li> <li>・昨年度から隠岐島後森林組合が新たに苗木生産に取り組み、今後コンテナ苗の生産を開始することは、伐採跡地の更新を確実にすることに繋がる。</li> </ul>	木材生産団地からの原木生産量(m <sup>3</sup> )	15,000	10,547	70%
			伐採跡地等の再造林面積(ha)	14	15	107%
隠岐-2	隠岐(しま)の木利用拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木増産が進む中、島内製材向け、本土合板向けなどに、円滑に且つ有効に原木を供給していくため、原木流通・需給調整機能の強化が必要と判断、新たに隠岐全体の木材流通と島外出荷を調整する体制づくりを行うことで関係者合意、組織化に向けた準備にはいった。</li> <li>・製品の高品質化については、「黒心材の商品化」に向けた試験や商品化に向けた活動を実施した。今後、本土で販売を行う業者の反応をみることになる。</li> <li>・島内の木材利用は、利用促進活動により、公共事業や町単補助事業において隠岐産材の利用が積極的に行われた。</li> <li>・合板等の島外出荷について、事業体の連携が必要なため、共同出荷体制づくりの途中。</li> <li>・隠岐の島町においてベレット製造施設導入に向けた検討委員会終了、今後はH26の町の方針決定を待って、製造施設的具体化となる。ベレットストーブ展示など普及啓発活動を継続して実施した。</li> <li>・H27年度から本土で始まる木質バイオマス発電に向け、隠岐からも発電チップ用原木の出荷に向けた林地残材の生産出荷実証を実施した。</li> </ul>	製材品出荷量(m <sup>3</sup> )	2,500	2,489	100%
			合板等島外出荷量(m <sup>3</sup> )	8,100	4,083	50%
			低質材利用量(m <sup>3</sup> )	10	144	1440%
隠岐-3	原木しいたけ振興プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト推進の前提となるクスギ原木林のデータベース化が終了し、正確な資源情報を確定させ隠岐の島町クスギ林台帳を策定した。これを受けて、隠岐の島町クスギ造林造成計画を策定し、来年度以降、必要なクスギ林の新規造成や既存林の適正な管理を進めクスギ原木の安定供給システムを構築する。</li> <li>・販売では、農外参入企業の県外販売ルートが安定的確保されてきた。また、JAと農外参入企業の連携も開始され、今後の有利販売に向けた展望が見えてきた。</li> <li>・JAでは今後の計画的な有利販売へ向けて、PRを行い生産者への周知を進めていく。</li> </ul>	乾しいたけ生産量(t)	6.0	5.5	92%
			乾しいたけ販売額(百万円)	18	14	78%
			生しいたけ生産量(t)	22.0	18.0	82%
			生しいたけ販売額(百万円)	29	22	76%
			原木供給量(原木販売量)(本)	75,000	65,000	87%
			新規クスギ造林面積(累計)(ha)	13	5.8	45%